

## IV まとめ

## IV まとめ

### 新型コロナウイルス対応のまとめ

#### 1 保健所の組織人員体制

- (1) 感染動向の予測が難しく、業務のひっ迫状況に応じて体制強化を図ったが、応援人員や執務室の確保・調整に時間を要し、患者対応が追い付かない場面があった。
  - ・ 機構上、保健所に保健所センターが所属していたため、保健所内応援が迅速に行えた。
  - ・ 第5波（R3.7～12）以降は感染状況による応援人員基準を設けたことで、スムーズに応援要請ができた。
  - ・ 患者台帳のシステム化や、SMSや電子申請の活用、委託・派遣の導入などで業務の効率化、省力化を図った。

課題：保健所業務のデジタル化が必要

- (2) 制度変更が相次いだが、国や県の動向などの情報収集担当を決めていたことで迅速に対応できた。

#### 2 全市的な体制

- (1) 全庁的な協力を得て応援体制を組むことができた。
  - ・ 早い段階から、総務局（人事課・庁舎管理課）の協力が得られた結果、全庁的な応援体制につながった。
- (2) 新型コロナ対策本部会議の運営を危機管理室が担ったことで、保健分野の対策に止まらず全庁的な対応を協議することができた。
- (3) 感染症患者の移送について、コロナ前から消防局と実施要綱を定めていたこともあり、スムーズに協力を得ることができた。

#### 3 保健所の人材育成や物資の確保

- (1) 感染流行当初には、感染症対策業務を経験した職員が限られていたため、新規配属や応援保健師に対して疫学調査や検体の取扱い、感染防御策などの研修会や講習を行い対応できる人材を増やした。
- (2) 日々変化する状況に対応できるよう、保健所内で感染症対応や制度変更の情報共有を行った。
- (3) 市中では、マスクや消毒液、ガウンなどが不足する事態も見受けられたが、保健所では毎年度一定数の備蓄を確保・更新していたことで、患者対応業務を継続できた。
- (4) 半導体不足のため、応援体制を拡大する際に電話機やPCなどの機器の購入に時間を要する場面があった。

## 4 市民に向けた情報発信

- (1)各種媒体を通じた感染防止の呼びかけと、陽性者数やクラスター発生状況等の感染状況を毎日公表した。

課題：状況が日々動いていく中で、市民にとって分かりやすい情報を簡便に提供できる仕組みが必要

- (2)岡山市のホームページにコロナの情報を集約したページを作成した。アクセス性向上のため、トップページにバナーを設置し、情報を体系化し、情報が見つけやすい工夫をした。

## 5 保育園・学校等での対応

- (1)保育園等では食事や遊びなど子どもたちの身体的接触は避けられないため、基本的な感染対策を徹底しながら、保育を継続した。
- (2)学校では、新型コロナウイルス感染症予防のための岡山市版ガイドラインの改訂を重ねながら、感染状況に応じた教育活動（課外活動や部活動を含む）を実施し、感染拡大防止との両立を図った。

## 6 社会経済活動の支援について

- (1)事業者への支援策については、業種ごとにコロナによる影響や支援ニーズが異なっており、制度設計に苦慮した。
- (2)事業者のニーズ把握ができたものでも、対応に苦慮する場面があった。
  - ・ 従業員の賃上げ…国の施策の範疇ではないか
  - ・ 省エネ機器導入補助…補助枠を上回る申し込みがあった。